



4.3

2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。

2.2

5歳未満の子供の发育障害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

高橋 一也

歯学部

高齢者歯科学講座

口腔機能管理を実践できる「かかりつけ歯科医」の育成で、地域包括ケアの推進を行う

患者さんのライフサイクルに沿って、口と歯に関する保健・医療・福祉を提供し、地域に密着したいくつかの必要な役割を果たすことができる歯医者さんを「かかりつけ歯科医」として、推進する活動をしています。

口腔機能が低下する「オーラルフレイル」は、全身のフレイル、サルコペニア、低栄養などと強く結びついていることが分かってきています。加齢に伴う老化が引き起こす口腔機能の低下は、歯科医療の介入によってその速度を遅らせることができます。口腔内を見るだけでなく、患者さんとのコミュニケーションを適切にとりながら予断をもって向き合い、気づきと介入のタイミングを逃さないことが重要です。



message

食べることは生きることです。「健口」の維持が「健康」につながります。超高齢社会に向けて地域包括ケアシステムの中で活躍できる歯科医療人の育成がSDGs推進につながると考えます。